

# 大学と美術館の協働による文化事業の展開 —造形ワークショップ『金屏風に花が咲く』の実践から—

〔自治体等側事業責任者〕 茨城県近代美術館天心記念五浦分館・企画普及課長  
荒木扶佐子  
〔大学側事業責任者〕 茨城大学教育学部・准教授  
片口直樹

選択テーマ 地域の教育力向上 学術文化の推進

## 連携先

茨城県近代美術館天心記念五浦分館

館間の有効な連携の在り方を探るとともに、発展的な課題を抽出することも目的とする。

## プロジェクト参加者

荒木扶佐子（茨城県近代美術館天心記念五浦分館・企画普及課長 担当：事業の企画・運営）

富永 京子（茨城県近代美術館天心記念五浦分館・首席学芸主事 担当：事業の企画・運営）

片口 直樹（茨城大学教育学部・准教授 担当：事業の企画・運営）

## 2 連携の方法及び具体的な活動計画

美術館側は、大学側責任者とともに事業の企画・立案を行い、実施に向けた運営を行う。また、ワークショップがスムーズに行えるように場所の設定や画材・道具の準備等を行い、活動の環境を整える。さらに、完成した作品の展示場所の確保や外部への広報を担当する。

大学側は、美術館側責任者とともに本事業の具体的な活動内容の企画・立案を行う。また、事前準備と事業当日の進行を担当する。他に、外部講師や補助学生の手配、映像作品の制作や展示構成及び展示作業等を担当し、本事業の趣旨を広く伝達させることに努める。

大まかな活動計画は以下のとおりである。

- 6月初旬…事業の企画・立案
- 6月中旬…事業の広報・参加者の募集
- 7月下旬…事業参加者の決定
- 8月下旬…事業の実施
- 9月中旬～10月8日…完成作品展示

## 3 期待される成果

事業を通して期待される主な成果は、①活動参加者（児童・生徒）の学校外美術体験による創造力の向上、②活動補助者（教育学部学生）の将来的な教育力の向上、③作品展示による鑑賞者へ向けた新たな美的感性の訴求、④大学及び美術館の地域貢献、研究・教育力の伝達、の四点である。

## プロジェクトの実施概要

### 1 プロジェクトの目的

本事業は「地域の教育力向上」及び「学術文化の推進」を目指した大学と美術館の連携によるワークショップ活動の実践である。具体的には、教育学部教員（画家）と外部講師（映像作家）が茨城県天心記念五浦美術館を舞台に地域の子どもの対象とした造形ワークショップ『金屏風に花が咲く』を実施する。最終的に、完成した絵画・映像作品を美術館が企画する『金-KIN』展の期間中に館内で展示し、鑑賞者へ訴求することを目的としている。

また、事業責任者は連携事業を3年間かけて実施する計画を立てており、今年度の成果をもとに、次年度の取り組みに向けた省察も行う。継続した取り組みにより、大学と美術

## プロジェクトの実施成果

### 1 活動実績

#### (1) 造形ワークショップの実践

【題名】金屏風に花が咲く

【日時】平成30年8月25日(土)

午前10時30分～午後2時30分

【場所】茨城県天心記念五浦美術館講座室

【講師】片口直樹(大学教員)

横田将士(映像作家)

【対象】小学生16名

【内容】参加者全員で一つの金屏風作品を制作するワークショップを実施した。美術館企画展『金-KIN-』関連イベントとして開催(図1・2)し、完成作品は展覧会期間中に美術館内で展示することを前提とした。作品のテーマを「花」とし、午前の部(1時間半)と午後の部(1時間半)に分けて制作を行った。

まず、午前中にモダンテクニック(デカルコマニー・ドリッピングなど)を応用した絵の具遊びを行い、「花」の素材となる色紙を複数枚制作させた。参加者が画材に親しみを感じながら、色彩と形の魅力を再発見することを目的とした。これにより、創作意欲の向上を図るとともに、午後の制作に向けて想像力を膨らませることを目的とした(図3)。

続いて午後に、制作した色紙を利用して、「花」の制作を行った(図4)。事前に準備した手製の屏風型キャンバスを提示し、参加者それぞれが理想の花の姿を想像し、コラージュの技法により、花の絵を完成させた。最後に、作品を金屏風に貼り付けることで、一つの大きな作品として完成させた(図5)。参加者が、屏風という伝統的な絵画要素を体感しつつ、共同制作が生み出す表現の多様性に

ついて考察した。

■企画展「金-KIN-」関連イベント  
夏のワークショップ  
参加者募集!

# 金屏風に花が咲く

「金-KIN-」展に先駆けて、華やかな金屏風の世界に花の彩りを加える絵画ワークショップを行います。参加者がそれぞれが描いた「心の花」を、大きな屏風に配置して、一つの大きな作品を完成させます。この夏、美術館で華やかな空間をつくってみませんか。

日時 8月25日 [土] 午前10時30分～午後2時30分  
作品展示期間：9月17日 [月・祝]～10月8日 [月・祝]  
参加対象 小中学生(保護者の見学も可。ただし、小学校低学年は保護者同伴)  
募集定員 20名※参加無料(往復はがきによる申込み抽選制※申し込み方法は裏面参照)  
講師 片口直樹(作家 茨城大学教育学部 准教授)

横田将士(映像作家 茨城大学教育学部 非常勤講師)  
映像作家、有朋会社キッチン代表。1983年埼玉県生まれ。2008年東京造形大学デザイン学科映画専攻卒業。コマ廻りからCG、実写まで、手作業を基とした制作で、NHKテレビ「シャベロクレーンズ」「おあさんといっしょ」「ふたふた・ピッコリーノ」「学芸員の物語」Hulu「だい!だい!だい!ずけおにいさん!!」など多くのテレビ番組の映像やCM制作、CM制作、CM制作などの制作、学生生活やNEWFORGER、映画KIDSなどのプロモーション映像などを制作。  
http://masahi-yokota-works.jp

連携協力 茨城大学教育学部

茨城県天心記念五浦美術館  
TENSHIN MEMORIAL MUSEUM OF ART (BARAKI)

図1 事業用フライヤー表面デザイン

【ワークショップ「金屏風に花が咲く」申し込み方法】  
往復はがきの裏面に①参加希望者全員の氏名(年齢)、見学希望者の氏名②代表者の住所③代表者の電話番号を、返復はがきの表面には返復先住所・氏名を明記してください。応募多数の場合は抽選になります。往復はがき1枚で4名まで応募できます。

■応募締切り 平成30年7月18日(水)必着  
※7月27日(金)頃までに受講の可否を連絡いたします。

■申込先 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町橋 2083  
茨城県天心記念五浦美術館「金屏風に花が咲く」係

■問い合わせ先 0293-46-5311  
※保護者の見学は可能です。  
※やむを得ない場合を除くキャンセルはご遠慮願います。

■展覧会のご案内 企画展「金-KIN-」  
金は古くから美術品に用いられ、近代以降の作家も伝統的な金の技法を踏まえながら新たな表現を開拓しました。本展では、華やかな金屏風の世界から、金を効果的に用いた作品まで、金の魅力を伝える近現代の日本画を紹介いたします。

(会期) 平成30年8月31日 [金]～10月8日 [月・祝]  
(開館時間) 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
※ただし9月中は9時間開館  
(休館日) 月曜日(ただし、9月17日 [月・祝]、9月24日 [月・祝]、10月8日 [月・祝]は開館。9月25日 [火]は休館。)  
(入場料) 一般310(260)円 / 70歳以上150(130)円 / 高大生210(150)円 / 小学生150(100)円 ※1) 9歳以下は200円 / 2) 障がい者割引あり

■関連イベント  
●展覧会担当学芸員によるギャラリートーク  
日時：9月1日 [土]・9月29日 [土] 13時～15時  
会場：展示室A(要企画展入場券)

●オープンワークショップ  
「金で描こう」  
日時：9月9日 [日] 13時～15時  
対象：小学生以上 ※参加無料

●来て・見て・発見!アートツアー for Kids  
日時：9月15日 [土] 10時30分～16時(90分程度)  
対象：小中学生 集合場所：エントランスロビー

●映画鑑賞  
場所：講堂(定員114名) 上映時間：10時～14時  
9月2日 [日]  
「天心」/2013年/122分/カラー/日本  
10月7日 [日]  
「東京物語」/1953年/136分/モノクロ/日本

五浦日本画塾  
会場：茨城県天心記念五浦美術館  
日時：10月6日 [土] 10時～16時30分  
対象：高校生・大学生 ※先着20名  
参加費：1,000円(昼食代・保険料含む)  
申し込み方法：電話またはFax  
問い合わせ：茨城大学社会連携センター  
0293-228-8425/Fax0293-228-8089

茨城県天心記念五浦美術館  
Tel.0293-46-5311(日本語対応) 見学 無料

図2 事業用フライヤー裏面デザイン



図3 午前の活動の様子



図4 午後の活動の様子



図5 完成した作品と参加者による記念撮影

## (2) 造形ワークショップ作品の展示

【題名】金屏風に花が咲く

【期間】平成30年9月17日（月・祝）～  
10月8日（月・祝）

【場所】茨城県天心記念五浦美術館ロビー

【内容】ワークショップ活動で制作した絵画作品（金屏風4曲一双）と、絵画作品をもとに制作した映像作品（DVD 2分）を、太平洋が一望できる企画展入口前に並置して展示した（図6）。映像は、ワークショップ活動のコンセプトや子どもたちの動きを反映させたものであり、絵画と対応して鑑賞することで、活動当日の様子を想起させる役割を持つ。また、活動の記録媒体としてDMを製作し、鑑賞者に配布した（図7）。作品を企画展鑑賞者に訴求することはもとより、活動参加者が作品を振り返る場となることを目的とした。



図6 作品展示の様子



図7 DM 画像面デザイン



## 2 プロジェクトの達成状況

### (1) 活動参加者のアンケートからの考察

ワークショップ活動後に簡単なアンケートを実施したが、活動内容について参加者全員が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した。その理由としては、絵の具を大胆に使用できたことなど、学校や自宅では経験できない特別な活動が魅力的であったことが自由記述から推察できる。

また、保護者の感想の中に、「子どもが生き生きと活動している様子に新たな発見があった」というものがあった。参加した子どものみならず、保護者にとっても気付きのある活動になったと思われる。

他にも、口頭によるアンケートから、色彩の多様性や伝統的な屏風について体験的に考察する機会となったことなどがうかがい知れた。

これらにより、期待された成果①「活動参加者の創造力の向上」が達成されたと考える。

### (2) 作品鑑賞者の感想ノートからの考察

ワークショップ作品展示期間中に、鑑賞者が自由に感想を記入できるよう「感想ノート」を設置した。50名の記入があり、そのほとんどが好意的な意見であった。映像作品に対する称賛が多々あり、絵画作品と並置することで活動当日の様子が鑑賞者に想起されていたことがうかがえる。作品への好意的な意見に加え、本取組み自体を称賛する意見もあった。大学と美術館による新たな取組みが、少なからず浸透したことが推察できる。

以上により、期待された成果③「新たな美的感性の訴求」が実現できたものと考えられる。

### (3) 活動全体を通して

本事業の目的の一つである「学術文化の推進」について、上記で触れたように、ワークショップ活動とそれによる作品展示の実践によって、社会に示すことができたかと推察する。

大学と美術館が双方の資源を活用し、協働により研究・教育力を発揮した姿を訴求することができたのではないだろうか。活動後には、本事業のコンセプトも示す映像作品をWeb上で公開 (<https://vimeo.com/289034384>) したり、本事業の全容を「茨城県近代美術館だより/No. 112」(発行：平成30年11月30日、茨城県近代美術館) で報告するなど、期待された成果④「地域貢献、研究・教育力の伝達」が果たされたと考える。

しかし、本事業のもう一つの目的である「地域の教育力向上」については課題が残った。当初は教育学部学生を複数名参画させ、活動補助者として関わる中で、教育力の向上を図る予定であったが、積極的な参加者は院生1名のみであった。参加した院生にとっては学びの多い機会となったものの、期待された成果②「学生の将来的な教育力の向上」を十分に果たせたとはいえない。

## 3 今後の計画と課題

今後の計画としては、プロジェクトの目的で述べたとおり、3年間の継続した取組みとして展開させていく予定である。本事業によりプロジェクト参加者の役割が明確になったことから、活動のスタイルを維持しつつ、内容を発展・充実させていくことを目指す。

その際の課題として、学生補助者の確保やワークショップ参加者の確保(特に中学生)があげられる。学生の確保については、活動日程の検討や学外活動への意欲の向上を図ることで解決していきたい。また、小学生に比べて参加希望数が少ない中学生の参加者を確保する上で、活動内容をより高度で魅力的なものに改良する必要があると考えている。これらの課題について、大学と美術館が連携して取り組むことも本プロジェクトの意義であると捉えているため、より強固な協力体制を整えていく所存である。